

町の たからもの 金ボタル



林の中を舞う金ボタル（新見市哲多町）

吉森写真館提供

「わあ、きれい。」

「きらきら ダイヤモンドのように ひかっている。」

「うごく ほう石だあ。」

「シーツ、しずかに。金ボタルが、おどろくよ。」

「金ボタル？」

ここは、岡山県おかやまけんの新見市にいみし哲多町てったちやうにある

はちまんじんじやの けいだいです。

七月はじめの 十日間かんくらい、金色いろに

かがやく 金ボタルを 見ることができます。



たくやは、お父^{とう}さんと いっしょに じんじやまで きました。ほかの
県^{けん}から きた人の 車も、たくさん ありました。

「金ボタルが おどろくと いけないから、小さな こえで はなすよ。

金ボタルは、とても めずらしい ホタルで、岡山^{おかやまけん}県の 天ねんきねんぶつ
なんだ。」

「へえ、この町に すんで いるのに はじめて 見たなあ。お父さん、
ホタルなのに どうして 水が なくても へいきなの。」

たくやも、小さな こえで たずねます。

「ヒメボタルという、りくで くらす ホタルなんだよ。ふつうの ホタルより
小さくて ピカピカ ひかるのが はやいんだ。」

お父さんも、小さな こえで こたえます。

「ほかの ホタルと ちがうんだね。」

「そうだよ。だから、町の人たちで 金ボタルを 大切に^{せつ} まもって
いるんだよ。おこうに ある 金ボタルのために かいた かんばんを 見て
みようよ。」

- みなさん ホタルを かわいがって
くださいね。
- つかまえないで ください。
 - ライトを てらさないで ください。
 - 大きな こえを 出さず、しずかに
見ましょう。
 - 虫よけスプレーは つかわないで
ください。





たくやが かんばんを 見て いると、

「金ボタルは 町の たからもの なんじゃ。」

と、はなしかけて きたのは、町の人たちで つくる
ホタルをまもるかいの おじさんでした。

「ホタルが みじかい いのちを たのしめるように
してやろうと、わしらみたいな ボランティアも、

がんばっとるんじゃ。道あんないを したり、みんなで
草かりをしたり にとるんじゃ。ホームページに

ホタルを 見るための マナーも のせとるぞ。」

おじさんの はなしを きいて、もう一ど 林の中の
金ボタルを 見に いきました。シーンと している

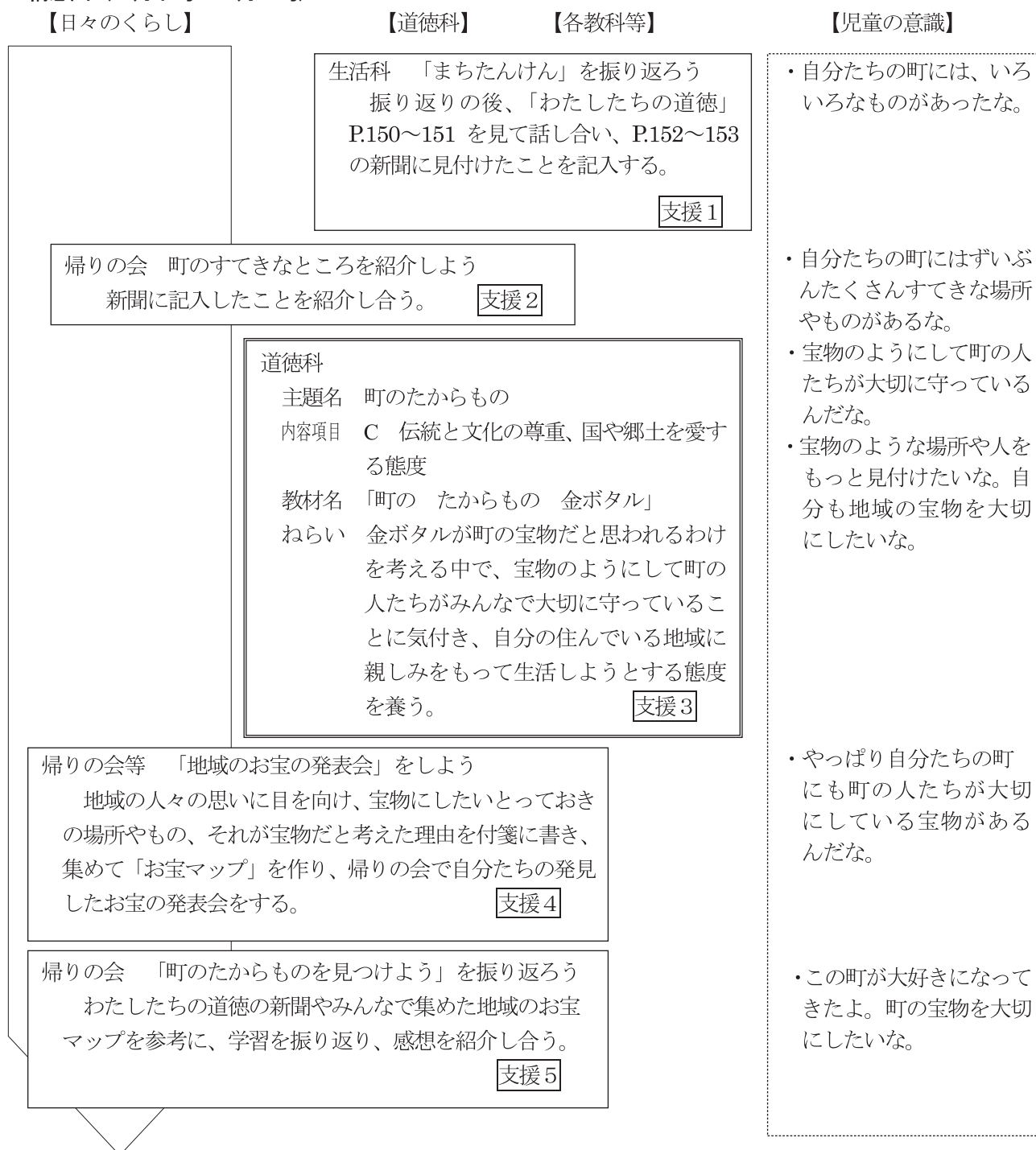
林の中に、いくつもの いくつもの 小さな ひかりが、
たからもののように かがやいて いました。

1 関連的な道徳の学習のテーマ 町のたからものを見つけよう

2 関連的な道徳の学習のねらい

道徳科を要として、生活科の「まちたんけん」や「町のすてきなところを紹介する新聞づくり」「地域のお宝発表会」の活動と関連を図りながら学習を進めることで、地域の宝物を見付け、それを守っている人の思いを知った上で、自分たちも町の宝物を大切にしていこうとする態度を養う。

3 構想図（6月下旬～7月上旬）



4 教師の支援

支援1－道徳的価値に対する構えに高めるために

生活科の学習「まちたんけん」を振り返り、自分たちの町にはいろんな場所やものがあつたことを思い出した後、「わたしたちの道徳」P.150～151を読み、「地域の施設」「地域で暮らす人々」「自然」「自分を支え、見守ってくれる人々」の順に、自分たちの「まちたんけん」と比べながら、「自分たちの町と同じだね。」「自分たちの町には、もっと違うものもあつたね。」などと感想を出し合う。自分たちの町への意識を高めたところで、「わたしたちの道徳」P.152～153を開き、あなたの町のすてきなところを紹介する新聞づくりをしてみよう。」と呼びかけ、新聞づくりをすることで、道徳的価値に対する構えが高まるようにする。

支援2－心を耕し、課題意識を高めるために

「わたしたちの道徳」P.152～153の新聞に記入した、自分で見つけた町のすてきなところを帰りの会等で紹介し合い、友達の発表から探検では見付けられなかった場所やものにも気付き、「自分たちの町にはずいぶんたくさんすてきな場所やものがあるんだな。」という意識をもつことができるようにする。

支援3－それまでに抱いた気持ちを道徳科で語るために

導入では、町探検や新聞づくりを通して、町の中にすてきなところがたくさん見付かったことを話題にし、その意識と金ボタルの写真や教材の題名をつなぎ、「金ボタルがどうしてこの町のたからものなのか」というめあてへと導くようにする。

展開では、金ボタルを守っている人の話を聞いたあと、再び金ボタルを見に行つた場面を中心場面として取り上げる。役割演技を通して宝物のようにかがやく金ボタルをもう一度見たときの、主人公たくやの気持ちの変化を考えることにより、金ボタルは多くの人に宝物のようにして大切に守られているということを知ったから、前見たときよりも余計にきれいに光って見えたということに気付くことができるようにする。その際、自分も宝物を大切にしたいと思うようになったたくやの気持ちを感じ取る中で、それまでに抱いていた地域をすてきだと思ふ気持ちを自分との関わりで語るができるようにする。その上で、自分たちの町にある場所やものへの、町の人々の関わり方を思い起こさせることにより、自分たちの町にも、町の宝物を大切にしている人がたくさんいることに気付くことができるようにする。

支援4－道徳科で捉えたことを確かにするために

道徳科で「自分たちの町にも、町の人たちが大切にしている〇〇な宝物があるな。もっと見付けたい。」という意欲が高まったところで、「お宝マップづくり」に取り組む。地域の人々の思いに目を向け、自分で見つけた町の宝物になりそうな場所やもの、それが宝物だと思ふ理由を、随時付箋に記入する。学級で作った「お宝マップ」に各自で書いた付箋を貼っていくことで、たくさんの人が大切にしている場所やものが地域のお宝として意識できるようにする。そして、帰りの会等を使って、少しずつエリアごとに「地域のお宝発表会」をし、自分たちの町にも宝物がたくさんあり、それを地域の人が大切に守っていることに気付かせ、道徳科で捉えたことを確かにすることができるようにする。

支援5－自分の変容に気付き意欲的になるために

「わたしたちの道徳」で記入した新聞やみんなで集めた地域のお宝マップを参考に学習を振り返り、感想を書く。各自が書いた感想を発表し合うことで、町の宝物のよさや町の人々の関わりに気付いた自分に満足できるとともに、自分の町の宝物を大切にしていきたいという意欲をもてるようにする。

5 要となる道徳科

(1) 主題名 町のたからもの

(2) 主題設定の理由

① 内容項目について

中心とする内容項目は、C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。」である。自分の生まれ育った郷土には、祭りや自然環境など長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などがある。郷土は自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたって大きな精神的支えとなるものである。これら郷土との主体的な関わりを通して、郷土を愛する心を育て、郷土をよりよくしていこうとする態度を育成する必要がある。

そこで、身近な地域の行事や自然環境、文化などに直接触れる機会を増やし、そこに携わる人々の努力や苦労などにも目を向け、自分が住んでいる郷土に親しみを持ち、生活しようとする態度を育てたいと考える。

② 児童の実態について

この時期の児童は、毎日の暮らしの中で地域の自然や文化に触れ、それをまるごと受け入れ、なじんでいる。そして、自分が住んでいる地域の自然や文化のよさに目を向けている児童が多い。しかし、それを大切に守っている人の存在に気付いている児童は少ない。

そこで、生活科の「まちたんけん」と関連を図りながら、道徳の学習を進めることで、自分たちの町にはずいぶんたくさんすてきな場所やものがあるんだなという意識をもたせる。そして、本時で、多くの人々が地域の自然や文化を守るために関わっていることに気付かせ、自分が住んでいる地域への親しみを深め、生活していくことができるようにしていきたい。

③ 教材について

本教材は、たくやという男の子が金ボタルを初めて見たことや、それを守ろうと努力しているおじさんの話をきっかけに、地域の人が大切に守っているということに気付くという内容である。金ボタルを見たときや、おじさんの話を聞いたあと、再び金ボタルを見に行った時のたくやの気持ちに焦点を当て、自分の住んでいる地域に目を向け、地域の宝物を大切に守っている人の存在に気付くことができるようにしたい。

◇ 板書例

町にはたくさんすてきなところがあるな。

町のたからもの 金ボタル

金ボタルの
写真

めあて
どうして金ボタルがこの町の
たからものなのだろう。

はじめて金ボタルを見たとき

- キラキラ光って、きれいだな。
- はじめて見たよ。
- ほうせきのようにかがやいてきれいだからたからものなのかな。

まもる会のおじさんのはなしをきいたとき

- たくさんの人が金ボタルを守っているんだ。
- 金ボタルは町の人のじまんだな。
- いろんな人にも大切にしてほしいのだな。
- 金ボタルはみんながたからもののように思っていて大切にしているんだな。

もう一ど、金ボタルを見に行ったとき

- 町の人みんながボタルをまもっているから、きれいなんだな。
- たくさんの人が大切に思っているから金ボタルが、町のたからものなんだな。
- 町の人が大切にしている金ボタルを大切にしたいな。
- 金ボタルも町の人もすてきな。

お父さんと山の中で金ボタルを見ている絵

◇ 町の人たちみんなで大切にしているから、町のたからものなんだな。
金ボタルやそれをまもる人がいる町ってすてきな。

○ 町のたからものを見つけてうれしかったこと

◇ 参考

金ボタル…雄で体長約9mm、雌で体長約7mm。普通に見られるゲンジボタルやヘイケボタルに比べて小さめのボタル。そのためヒメボタルとも名付けられている。雌は後翅が退化して飛べない。新見市哲多町にある八幡神社に生息している。

(3)ねらい

金ボタルが町の宝物だと思われるわけを考える中で、宝物のようにして町の人たちがみんなで大切に守っていることに気づき、自分の住んでいる地域に親しみをもって生活しようとする態度を養う。

(4)展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 町探検を振り返り、めあてをつかむ。	○ これは、新見市の金ボタルの写真です。この金ボタルが町の宝物だと言われていることを知っていましたか。	・町探検を振り返り、地域のよいところがたくさん見付かったことを話題にし、金ボタルの写真や教材名とつなぐことで、めあてへと導く。
どうして金ボタルがこの町のたからものなのだろう。		
2 「町の たからもの 金ボタル」を読んで話し合う。	<p>○ 初めて金ボタルを見たたくやは、どんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラキラ光っていて、きれいだな。 ・この町に住んでいるけど、初めて見たよ。 ・宝石のようにかがやいていて、きれいだからたからものなのかなあ。 <p>○ 金ボタルを守るための看板や、守る会のおじさんの話を聞いたとき、たくやはどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人が金ボタルを守っているんだな。 ・町の人、金ボタルが自慢なんだなあ。 ・いろいろな人にも、このボタルを大切にしてほしいのだな。 <p>◎ もう一度、金ボタルを見に行ったとき、たくやはどんな気持ちで金ボタルを見たのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の人みんながボタルを守っているから、こんなにたくさんいて、きれいに見えるんだな。 ・たくさんの人が大切に思っているから金ボタルが町の宝物って言われるんだな。 ・町の人みんなが大切にしている金ボタルなのだから、自分も大切にしたいな。 ・金ボタルも町の人もすてきだな。 	<p>・たくやの言葉に目を向けさせることにより初めて見た驚きとその迫力、すごさに感動していることに気付くことができるようにする。</p> <p>・看板やボランティアの人の話から、町の人たちが、金ボタルをとっても大切にしていることを感じ取らせる。</p> <p>・児童がたくやになり、教師が父親役になり役割演技をすることにより、町の人々の思いを知ったことで、前より一層きれいな宝物のように見えたたくやの気持ちの変化を、捉えさせる。</p> <p>・人々の力で金ボタルがキラキラと輝き、町の宝物となっていることに気付くことができるようにする。</p>
町の人たちみんなで大切にしているから、町のたからものなんだな。金ボタルやそれを守る人がいる町ってすてきだな。		
3 自分たちの町の宝物について話し合う。	○ あなたは、町の宝物を大切に守っている人たちがいることを知っていましたか。どのように思いますか。	・町のすてきなことを紹介した新聞作りを振り返り、町の人たちが一生懸命がんばっているすてきな姿を思い出し、どうするか話し合わせる。
4 地域の人の話を聞く。	○ みんなの町の宝物について地域に住んでいる方の話を聞きましょう。	・地域（学区）の自然や文化財、それらを守っている人たちのビデオレターなどを活用することで、自分たちの町の宝物もやっぱり町の人たちに大切にされているんだな、という気持ちをもてるようにする。
自分たちの町にもみんなに大切に守られているたからものがあるな。他にもたからものをもっと見付けて大切にしたいな。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・金ボタルを町の人々が宝物のように思っていてみんなで大切に守っていることに気付くことができたか。 ・町の宝物をもっと見付け、大切にし、自分の住んでいる地域に親しみをもとうとする意欲を高めることができたか。 	